

# 食味値導入で米のブランド力を向上させ高値で買取販売

四万十農協(高知県)

## 取組の概要

- 農家所得向上のため、県内の「米どころ」で仁井田米ブランドとして販売するため、JAが買取販売を実施。
- 仁井田米ブランド力強化のため、日本穀物検定協会のお米の食味ランキング特A獲得へ向けた取組を実施。

## 事業化(プロジェクト化)成功のポイント

### ☆ 農家の手取り確保とやる気を引き出す手法

#### 1 JAによる米の買取販売(平成17年産から開始)

- ① 全農委託による県産米としての販売から、ブランド米としての地域の米の強みを活かした販売へ移行。
- ② JAがリスクを引き受ける形とし、対象品種・3等以上であれば無条件で米を買取り。ただし、一定の品質を確保するため、農家に生産履歴の提出を義務付け。
- ③ JA職員が県内のスーパー・小売店・飲食店を対象に新規の顧客獲得に努めている。買い取った米の約7割は卸へ玄米販売、約3割はJAで精米し新規顧客へ販売。
- ④ 農家の信頼も厚くなっており、JAの集荷率低下傾向にも一定の歯止めがかけられた。JAの米の全取扱高に占める買取販売実績(平成28年)は、数量ベースで約95%(約1,240トン)。

#### 2 農家ごとの米の食味を数値化

- ① 当初は営農指導の一環として平成12年に食味計(玄米測定)を導入したが、平成20年産から平成25年産までは買取代金の加算措置にも活用。これまでに食味値85%以上で100円~300円/30kgの加算措置。食味計はカントリーエレベーターに設置し農家が出荷した都度、食味を計測。
- ② 農家としても出荷したコメの食味が数値化されることにより、栽培管理や施肥の量・タイミングを工夫する等、高品質米を生産する励みとなっている。

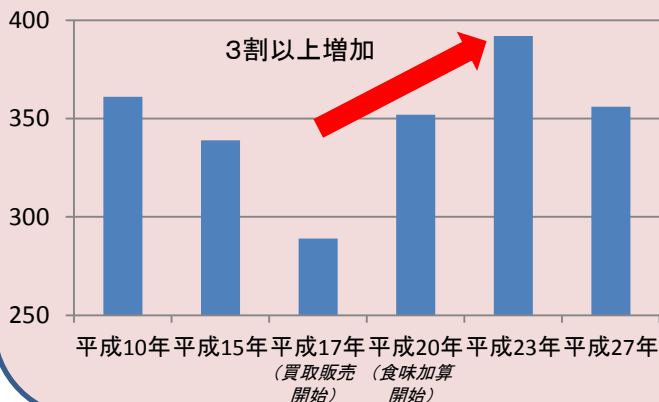
#### 3 お米の食味ランキング特A獲得への取組

平成27年産より仁井田米ブランド力強化のため、日本穀物検定協会のお米の食味ランキング特A獲得に向け取組を開始。平成28年産には「にこまる」で特Aを獲得。

## 農協のメリット・農家のメリット

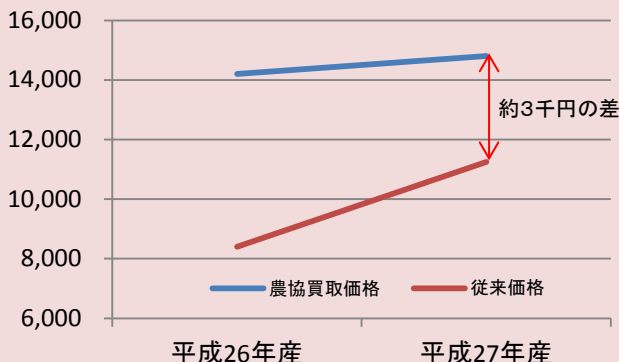
### <農協の米取扱高>

(百万円)



### <農家の手取り価格>

(円/60kg)



- 注1) 農協買取価格はヒノヒカリ1等価格  
2) 従来価格については最終精算額